

一 般 質 問 通 告 書

令和 6年 1月18日

議 会 議 長 様

議席番号 4 番

議員氏名 久松祐樹

質 問 事 項	質 問 要 旨	指 定 答 弁 者
1. 不登校の子どもにも温かい町に	<p>令和5年度12月末時点で、町内の小中学校別の不登校の人数は、小学生29名、中学生74名です。無気力になってしまったり、学校生活やご家庭での不安、中学生では進路への不安など要因は様々です。</p> <p>そのような子どもたちを支えるため、当町ではカルスタすぎとに「適応指導教室」を設置するとともに、杉戸第二小学校に「ほっとルーム」をモデルケースとして設置し、子ども一人ひとりの居場所をつくり、心に寄り添った支援をされています。</p> <p>昨年、両施設を見学させていただき、その際、「(不登校の子どもがひとりでも多く)「適応指導教室」や「ほっとルーム」に行けるようにすることが課題である」とのお話もいただきました。</p> <p>そこで、以下を伺います。</p> <p>(1) いじめが原因となり、不登校になった子どもはいるのか。</p> <p>(2) 「適応指導教室」にも「ほっとルーム」にも行けない子どもやそのご家族に対して、担任の先生が主体となって家庭訪問をされたり、教育相談所と連携を図ったりするなど、様々な支援をされている。</p> <p>見学の際にお聞きした課題も踏まえて、不登校の子どもが社会的自立をしていくための支援方針についてはどのように考えているのか。また、ご家族に対してはどのような支援を考えているのか。</p>	町長 副町長 教育長 学校教育課長 子育て支援課長 担当課長

1月18日 午前・午後 0時45分 受理

質問事項	質問要旨	指定答弁者
2. 空き家を減らす取組を	<p>(3) 「ほっとルーム」はモデルケースとして杉戸第二小学校に設置され、一定の成果を挙げていると見ている。そこで、「ほっとルーム」を本格的にスタートさせ、各校へ設置する計画は。</p> <p>(4) 民間の力を活用し「校内フリースクール」を提案するが、町の見解は。</p> <p>野村総合研究所の調査によれば、全国の空き家数は2033年に2150万軒になり、空き家率は30%を超えると予測されています。当町においても空き家が散見され、町民の方々からは空き家の増加を懸念する声を多数いただいています。所有者所在不明であるケースも多く、そこから派生して様々な問題が生じています。</p> <p>建物の老朽化や景観の悪化が進み、管理不全の空き家を増やさないよう、昨年11月に「杉戸町空家等対策計画(案)」が示されるなど、空き家問題は当町の大きな課題のひとつだと考えます。</p> <p>そこで、以下を伺います。</p> <p>(1) 当町では、行政区長の情報提供を元に、空き家の現地調査等を行っているが、こうした調査手法で空き家情報の把握に漏れが生じる恐れはないか。</p> <p>(2) 管理不全の空き家に関する苦情や相談を受けた際、現在は当町から所有者へ改善を促すために通知を送付、また町内在住の所有者には直接訪問をするなど、管理不全の空き家を減らす取組をされている。しかし、それらだけでは改善につながらない現状も多くあると思われる。また、令和5年度に受けた町民からの空き家に関する苦情や相談は100件以上あり、その内、解決済みの案件は10件であると聞いている。これらの現状と改善状況を踏まえ、当町の空き家対策への今後の方針は。</p> <p>(3) 空き家等の有効活用が図れるよう、「杉戸町空家バンク」を開設しているが、現在の登録数は0である。積極的な活用のため、周知方法等どのような取組を考えているのか。</p>	<p>町長 副町長 危機管理課長 建築課長 担当課長</p>

質問事項	質問要旨	指定答弁者
	<p>(4) 空き家は、管理されず放置されるほど老朽化し、活用が困難となる。高齢者の一人暮らし世帯等、いずれ空き家化しそうな家を「空き家未満」と名付け、対象者に空き家にしないための手続き等を伝える説明会を開催してはどうか。</p> <p>(5) 空き家を地域住民が集まれるコミュニティスペースや高齢者デイサービス等のように、公共財産として活用して、地域振興につなげていくのはどうか。</p>	